

# 「祝!!同窓生が准教授就任」

この度、1期生の金田徹先生が東海大学医学部外科学系麻酔科准教授に、2期生の大城吉則先生が母校の器官病態医学科講座泌尿器科学分野准教授に就任されました。我々同窓会会員にとっても大変喜ばしいニュースですので、今後の抱負について寄稿していただきました。



## 安全な麻酔の追求

東海大学医学部外科学系麻酔科 准教授 金田 徹 (1期生)

琉球大学医学部医学科同窓会の皆様こんにちは。私は2009年4月より東海大学医学部外科学系麻酔科准教授として勤務させていただいております琉球大学医学部医学科の1期生です。1987年3月に卒業して以来皆様には大変ご無沙汰いたしております。このたびは同窓会会報誌に寄稿の機会をいただきました事、驚きと喜びを感じております。

わたくしは琉球大学卒業後、慶応義塾大学医学部麻酔学教室に入局させていただき、麻酔科医として大学、大学関連の市中病院で臨床を中心に時に研究を交えて仕事して参りました。そして2006年4月より縁あって東海大学の麻酔科に講師として赴任させていただき鈴木利保教授のもとで仕事をさせていただくことになり現在に至ります。琉球大学の麻酔科の先生方とは学会等で交流があり、特に学生時代バレー部の後輩であった垣花先生とは深く交流させていただいております。

麻酔科医として二十数年が経ちますが、日々肝に銘じるべきことはやはり“安全”ということにつきまます。“麻酔”は“手術”という外科的治療に伴う肉体的、精神的“痛み”を取り去るための手段であります。そして麻酔に用いられるいわゆる“麻酔薬”は基本的に毒薬であるといっても過言ではありません。したがって、そのさじ加減が実に重要になってきます。江戸時代1805年に花岡青洲が日本で初めての全身麻酔を行って以来200年経過した今、麻酔の安全性は向上してきていますが100%安全ということはないのです。数年前の日本麻酔科学会の調査

結果によると、麻酔専門医が勤務する病院では、手術室における心停止、低酸素、極端な低血圧の発生頻度は1万人あたり各々7, 8, 19人で、このような事態のために死亡する頻度は1万人に7人。このうち麻酔が原因となって生じる頻度は1, 4, 5人で、麻酔が原因で死亡する頻度は1万人に0.2人、つまり5万人に1人と報告されています。

また近年の高齢化に伴う手術患者の高齢化、並びに手術関連機器の進歩に伴う手術手技の向上が手術件数の増加と手術の難易度の上昇をもたらすことになり、より慎重な術中患者管理すなわちより繊細なさじ加減が求められてきます。これは医師と患者間のコミュニケーションにも通じることと考えます。そしてそれを可能にするために新しい麻酔薬、関連薬剤の開発と研究、新しい術中モニターの開発や進歩のための基礎、臨床研究が重要になり日々取り組んでいるような現況です。

最後に東海大学医学部付属病院は神奈川県西部の中核となる急性期病院でドクターヘリを有し救急医療に特化した施設であります。手術室は21部屋(24床)でその広さ設備は日本トップクラス(1番?)です。2008年度の手術件数は9,818例でそのうち麻酔科管理症例は6,524例でした。こんな大学ですが興味をお持ちになりましたら是非見学にいらしてください。お待ちしております! 最近琉球大学の卒業生が卒後臨床研修目的に東海大学に来られて研鑽を積んでおられる姿を目にいたします。